

< あなたの治療について >



消・外 - Pmab - 大腸 - q2w

今回の治療は、Pmab という治療法で、ベクティビックス (Pmab) という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

治療全体の流れ

今回の化学療法は2週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を2週間(14日間)ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~14日目
	ベクティビックス (抗がん剤) 6mg/kg	点滴 約1時間		
	生理食塩液 (電解質)	点滴 初回約1時間 2回目からは 全開		

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について (頻度 20%以上)

ベクティビックスについて

ざ瘡・皮膚乾燥・発疹・痒痒 爪囲炎 低マグネシウム血症 疲労 口内炎 食欲不振

*ざ瘡, 発疹, 皮膚乾燥, そう痒症 爪囲炎などの皮膚障害については、別添の資料を参照して下さい。

特徴的な副作用について

ベクティビックスにおける

infusion reaction

「アナフィラキシー様症状(発疹、発汗、呼吸困難)、血管浮腫(顔・舌・のどが腫れる)、気管支けいれん、発熱、悪寒、呼吸困難、低血圧」などの症状

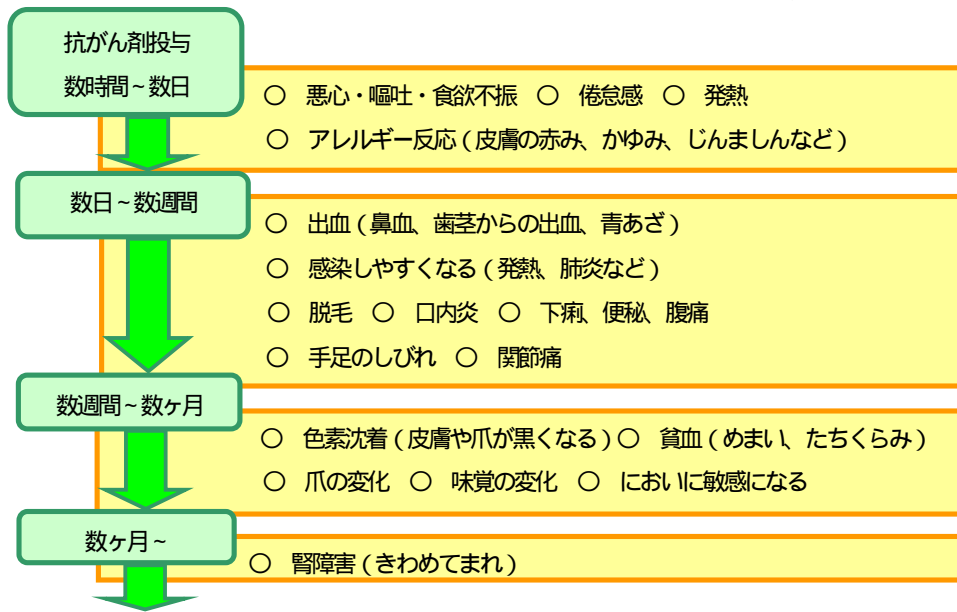
*上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【ベクティピックス】

<間質性肺疾患>発熱、から咳、呼吸困難、倦怠感

<薬剤注入にともなう反応>アナフィラキシー様症状（発疹、発汗、呼吸困難）、血管浮腫（顔・舌・のどが腫れる）、気管支けいれん、
発熱、悪寒、呼吸困難、低血圧

<重い皮膚症状>にきびのような発疹や吹き出もの、かゆみ、爪のまわりの炎症、皮膚の乾燥やひび割れ

<激しい下痢>激しい下痢、脱水などの症状やこれに伴う急性腎不全

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。